

令和8年度

吉野川市立鴨島小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○自分なりの考えをもち、表現することができる児童を育成する授業の実践
○学び合う学習(主にペア学習・グループ学習)を一層取り入れた授業の実践
○タブレット端末等を生かした「主体的・対話的で深い学び」につながる授業の実践

校長

長谷 彰彦

学力向上推進員

数尾 大樹

【各校の取組状況の把握について】

教員の取組の振り返りや学校評価(教員・児童・保護者)、研究授業、管理職の授業参観等により取組状況を把握する。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学習に意欲的に取り組む児童が増え、基礎的・基本的な知識・技能の習得はできてきている。 ●既習内容を活用して新しい問題を解くことが難しい。 ●問題を読み、意味を理解して取り組む力が不十分である。 ●語彙が少ない。	・既習内容を関連付けて考え、自分で選択しながら活用し、新たな課題に取り組むことができる。 ・課題の意味を正しく理解し、答えることができる。	・「家庭学習の手引き」や「学習スタンダード」を見直し、教員全員で共通理解をして取り組んでいく。 ・朝の活動等を使い、様々な問題に取り組ませたり、読書を推進したりして、読解力を高めていく。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○友達の発表を取り入れたり、考えのよさを認め合ったりすることができる。 ●自分の考えや思いをわかりやすく書いて表現することに課題がある。また、苦手意識がある児童も多い。	・根拠を明確にしなが、相手や目的に合わせて自分の思いや考えをわかりやすく説明することができる。	・話し方や聞き方のポイントを明確に示す。(掲示物やカードの作成) ・単元の終わりに何を学んだかを振り返る時間を確保し、自己の変容を自覚できるようにしていく。 ・思考する場面や考えを共有する場面でタブレット等ICT機器を効果的に活用する。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○目標が明確にあると自分で学びを調整しながら意欲的に取り組むことができる。 ●難しい課題や時間のかかる課題に、最後まで粘り強く取り組むことが苦手な児童がいる。また、積極的に発表したり意見を交流したりすることに課題がある。	・自分なりの目標をもち、見通しを立てて粘り強く最後まで課題に取り組むことができる。 ・学びに向かう環境を自ら整えたり、選択したりしながら、次の学びに向かう意欲をもつことができる。	・児童の実態に応じた単元構想を工夫し、児童が常に学習の見通しをもって主体的に取り組めるよう、計画的な授業実践に努める。 ・鴨島小学校「学習スタンダード」の繰り返し指導を行う。			